

 SOFT CREATE

ソリューション概要

○プロフィール

株式会社ソフトクリエイトホールディングス (<http://www.softcreate-holdings.co.jp/>) は、1983年にパソコンショップ「ソフトクリエイト」として創業。2年後となる1985年に受託開発系のSIサービスを開始すると、その年のうちに商号を「株式会社ソフトクリエイト」に変更。以来成長の一途をたどり、2011年には東証一部指定を受け、2012年にホールディングス制に移行。ネットショップ市場：ECソリューションシェア業界 No.1 の実績を誇る、最先端のITソリューションカンパニーとして、ECサイト構築からインターネット広告 / デジタルマーケティング / ITインフラ構築運用 / クラウド / ITプラットフォームまで数多くの事業を展開。中でも主力事業「ecbeing」はメーカー・アパレル・音楽を中心に1,000サイト以上、国内トップシェアの導入実績を誇ります。

○導入製品とサービス

・Microsoft Azure

○メリット

- ・1年以上の運用を経て、今もなお「重大なトラブル0件」を更新中。年間約96人/日に相当するコストを削減
- ・データセンターに契約していた42Uのラックを解約するなど、明確なコスト削減を達成
- ・ハードウェア資産を極力排したことにより、システム全体の構成をシンプルにすることに成功。セキュリティ強化に向けた対策の実施など、運用品質を全体的に向上
- ・障害対応に追われていた時間をなくすことで、本来業務へ注力することが可能になった
- ・「働き方改革」が進んだ

○ユーザーコメント

「グループ全体のお客様への提案力を伸ばしていくために、当グループの基幹業務システムを運用するプラットフォームに、SCCloudとAzureを混在活用しています。加えて、基幹業務システムをクラウド化することで効率化が進み、当グループの『働き方改革』も、大きく前進することができました」。

株式会社ソフトクリエイトホールディングス
取締役

沼田 浩邦 氏

「本プロジェクトは、コア業務に注力する戦略的なIT部門になるために重要なプロジェクトでした。おかげで運用開始から今日まで「トラブル0件」が続いています。過去の障害発生率と比較した単純な計算でも年間で96人/日分の労力が削減できたことになりました」。

株式会社ソフトクリエイトホールディングス
情報システム室長

部長代理

長尾 聡行 氏

800名が利用する業務システム基盤を Azure と SCCloud の相互接続でフルクラウド化。クラウドの徹底活用で働き方改革を促進

株式会社ソフトクリエイトホールディングスは、ECサイト構築からインターネット広告 / ITインフラ構築運用 / クラウド / ITプラットフォームまで数多くの事業を展開するソフトクリエイトホールディングスグループの要として業務システム全体の管理まで担っています。2015年からは、このシステム管理を省力化すると同時に、グループ内のSI事業における提案力強化にも直結する施策として、システムのほとんどをクラウド化するプロジェクトを推進。同グループが提供するクラウドサービス「SCCloud」と共に、新たなシステム基盤として選ばれたのが、Microsoft Azure でした。

導入の背景とねらい

さらなる成長を期して、800名の業務を支えるシステム環境をクラウド化

株式会社ソフトクリエイトホールディングス（以下、ソフトクリエイトホールディングス）は、ECサイト構築市場9年連続国内シェア No.1 を誇る株式会社 ecbeing と、お客様の要望に合わせて最適なシステムを提案・構築するシステムインテグレーション（以下、SI）事業を担う株式会社ソフトクリエイト、そしてワークフロー事業を担う株式会社エイトレッドをグループ傘下として統括する、「ソフトクリエイトホールディングスグループ」の要です。ECサイト構築からインターネット広告 / デジタルマーケティング / ITインフラ構築運用 / クラウド / ITプラットフォームまで数多くの事業を展開するソフトクリエイトホールディングスグループの勢いは止まることなく、創業35年を超えて、過去最高の売上高（137億円：2017年3月期）を更新しています。

この勢いを維持し、さらなる躍進を期するソフトクリエイトホールディングスグループでは、2014年から「Speed & Change」というスローガンを掲げ、時代の一步先をゆく事業展開を心掛けています。その精神は、グループの隅々にまで浸透。たとえば、業務用の各種ITシステムは、社内業務を効率よく支える存在であると同時に、お客様へのソリューション提案に活かすための、新しいテクノロジーにチャレンジする場にもなっています。

しかし、業務システムにおけるチャレンジは、簡単なことではありません。ソフトクリエイトホールディングスグループには536名（2017年4月1日時点）、パートナー企業から常駐しているスタッフを含めると約800名が同じビル内に勤務しています。彼らの業務を支える業務システムはソフトクリエイトホールディングスの情報システム室が集約管理していますが、運用・保守を行うメンバーはごく少数です。そのため、システムの保守管理に貴重な労力の大半を割かれてしまい、新しいアイデアの創出や経営データの解析など、グループの要を担うホールディングスの「本来業務」に費やす時間が不足していることが課題になっていたと、ソフトクリエイトホールディングス取締役 沼田 浩邦氏は言います。「情報システム室のメンバーは、ホールディングスの社員である長尾1名に加え、ソフトクリエイトから出向している2～3名のメンバーで構成されています。本来であれば長尾には、グループ全体の経営に資する「コア業務」に注力してもらわなくてはならないのですが、少人数ゆえに、どうしてもシステムの保守に時間をとられてしまいます。この非効率を解消するために、2012年にホールディングス体制に移行して以来、常に改善策を検討してきました」。

PCにサーバー、ストレージなどのハードウェアには故障がつきものです。約800名の業務環境を支える情報システム室が、日々トラブルへの対応に追いついてしまう状況は、半ば必然に発生します。

意思決定の迅速化を支え、ソフトクリエイトホールディングスグループの「Speed & Change」を実践するためには、不可欠なデータ解析を存分に行い、システムの運用・保守にかかる情報システム室の負担を軽減するシステム環境を根本から変化させる必要がありました。

さらに言えば、IT人材の中でも特に「情報システム担当者の不足」という課題が日本の多くの



株式会社ソフトクリエイトホールディングス
取締役
沼田 浩邦 氏



株式会社ソフトクリエイトホールディングス
情報システム室長
部長代理
長尾 聡行 氏



株式会社ソフトクリエイト
技術本部
クラウドソリューション部
部長
武井 直孝 氏



株式会社ソフトクリエイト
技術本部
クラウドソリューション部
クラウド インテグレーション
グループ長
佐藤 吉人 氏

企業に共通する課題でもあります。そのため、ソフトクリエイトホールディングスの課題を解決することは、そのまま「お客様の抱えている課題の解決に向けた提案」にも活かされることにもつながります。

この点を重視したソフトクリエイトホールディングスでは、前述の課題解決に向けて、大きな方針決定を行っています。それが、「ソフトクリエイトが提供するクラウドサービスと、マイクロソフトや他社が提供するパブリッククラウドを相互接続し、基幹システムを含めた全ての社内システムをクラウド化（フルクラウド化）」して、その運用をグループ子会社であるソフトクリエイトに全面的にアウトソーシングするというものでした。沼田氏は言います。

「ソフトクリエイトには、SCCloud（エスシークラウド）というクラウドソリューションがあります。しかし、このソリューションは、「自由に使えるプラットフォーム」というよりは、ソフトクリエイトのノウハウを活かしたアプリケーションを中心に SaaS（Software as a Service）型で提供するサービスの主軸にしています。一方、最近ではシステムの利用に応じて、パブリッククラウドを選択するお客様も増えています。そうした状況を踏まえ、よりお客様ニーズに合わせたサービスへと強化していくためには、自社サービスに対する知見を深めていくだけではなく、幅広いナレッジをグループ内に蓄積させていく必要があります。あらゆる用途に対応していくためにも、クラウドを当グループの業務システムを運用するプラットフォームとして、混在活用することを決断しました」。ファイルサーバーにプリントサーバー、グループウェアや基幹業務システムなど、長きにわたってオンプレミスで運用されてきたさまざまな業務システムをすべてクラウド化することで、情報システム室がサーバーやストレージなどのハードウェアの運用や監視業務から解放されることとなります。また、セキュリティ / コンプライアンスという側面から見ても、ネットワーク構成や各種製品のライセンスなどが複雑に絡み合っている状況で、管理も煩雑にならざるを得ない状況であらゆる対策が困難でした。しかし、仮想化 / クラウド化によってほとんどのハードウェア資産を排し、社内には PC やスマホ等のデバイスしかないというシンプルなシステム構成に変わることによって、さまざまな対策が立てやすくなります。

さらに、グループ内に運用管理をアウトソーシングすることによって、ソフトクリエイトホールディングスとしては、グループ全体を統括する本来の業務に注力することが可能となり、ソフトクリエイトでは、お客様への提案にも直結する「パブリッククラウド活用の社内事例」ができあがることとなります。

ここで重要なポイントとなるのが、「数あるパブリッククラウドの中から、どのサービスを採用するか？」ということでした。

ポイントは、「実用に耐える」サービスであることです。従業員約 800 名、クライアント PC 約 1,200 台が活用する業務システムを問題なく支えるパフォーマンスと可用性を求めて、ソフトクリエイトホールディングスでは慎重に検討を実施しています。そして選ばれたのが、Microsoft Azure を IaaS（Infrastructure as a Service）として活用する計画でした。

導入の経緯とシステム概要

Azure の可用性と信頼性の高さ、 日本マイクロソフトのサポートの充実を評価

ソフトクリエイトホールディングスが Azure を採用した背景には、メールや文書共有などを行う情報共有基盤として 2012 年から Microsoft Office 365 を活用していたことがプラスに働いていると、ソフトクリエイトホールディングス 情報システム室長 部長代理 長尾 聡行 氏は言います。

「以前から、メールとドキュメント共有に Office 365 を活用していました。特別なトラブルもなく、快適に活用できていましたので、同じマイクロソフトのクラウドサービスである Azure に対しても、その可用性の高さや信頼性について大きな不安はありませんでした。それに、Windows や Office 365 は今後も活用を続けることを考えれば、できる限りマイクロソフトのテクノロジーを活用した方が、システムの管理や、いざという時の対応もシンプルにできます。そこで、業務システムの一部を試験的に Azure 上で稼働させるなど、以前から少しずつ検証を進めていました。この間も特に問題が生じることもなく、Azure への信頼やコストメリットを十分に実感した上で、採用を決断するに至っています」。

さらに、Office 365 の活用を通じて、「日本マイクロソフトによるサポート対応が、非常に早くて、丁寧だった」ということも、重要な判断要素だったと言います。

「Office 365 の活用を通じて一番感心したことが、「日本マイクロソフトのサポート窓口とすぐに連絡がついて、しかも対応が非常に早い」ということでした。私はプログラマーとしてキャリアをスタートして、前職では大手ネット企業の情報システム部門にいたこともあり、「昔のマイクロソフト」もよく知っているのですが、まるで印象が違いました。それに、新機能の追加やセキュリティの向上といったバージョンアップも非常に早くて、私たちが何も考えなくても『気がついたら、どんどん

使いやすくなっている』ということも強く実感していました。Azure にも、同様の安心感が提供されるということは、当グループにとっても大きな魅力でした」(長尾 氏)。

Oracle を利用した基幹業務システムも わずか 2 か月で Azure 上に移行

こうして Azure の採用が決定すると、移行プロジェクトはスピーディーに進行。特に、Oracle をデータベースに活用している基幹業務システム = 販売管理・財務会計システムを、「非常に簡単に移行できたのも、クラウドならではのメリット」だと、長尾 氏は振り返ります。

「オンプレミスであれば、システムの要件定義から、サーバーハードウェアの調達・設定までに数か月を要したと思います。しかし、Azure であれば、テスト用から本番環境まで、それぞれ必要となるサーバーリソースの調達は一瞬で済みます。また、Oracle の稼働も公式にサポートされているため安心感がありますし、データベースのパフォーマンスに関しても、仮想化して Azure 上にアップした後でリソースを最適化すれば何の問題もありません。おかげで、基幹業務システムの移行がわずか 2 か月で完了しました。本当に、クラウド化に踏み切って良かったと思います。」

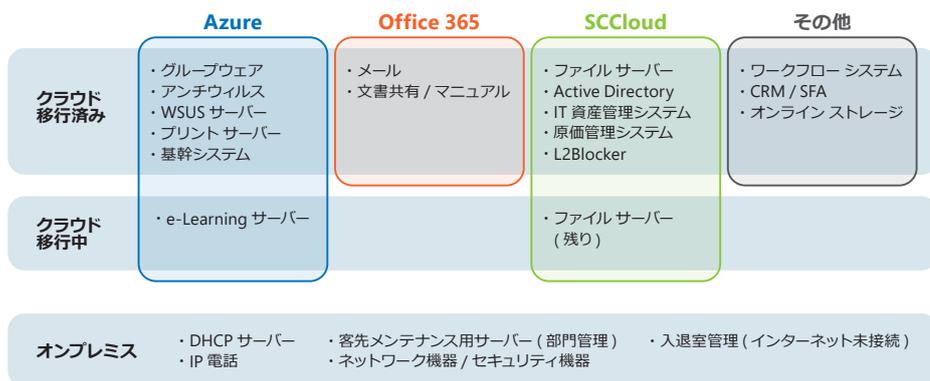
また、グループウェアとして利用しているサイボウズ ガルーンも Azure 上に移行。ソフトクリエイイト 技術本部 クラウドソリューション部 クラウド インテグレーショングループ長 佐藤 吉人 氏の手によって、「以前の環境よりも、はるかに円滑に稼働している」と言います。

「月曜の朝は、お客様先への直行も少なく、ほとんどの社員が出社し、サイボウズ ガルーンにアップされている伝達事項などをチェックします。非常に短時間にアクセスが集中するため、これまでは動作が重く、従業員全員の不満になっていたのです。この課題を解決するために、月曜になると自動的に Azure で使用する VM (Virtual Machine : 仮想マシン) のランクを上げて再起動するように、私たちの手で設定しました。これにより、パフォーマンスが大きく向上しています。おかげで今では『月曜の方が、動作が軽い』と言われるようにまできています」(佐藤 氏)。

導入効果

運用開始から 1 年以上トラブル 0 を更新 約 96 人 / 日の労力を削減!

ソフトクリエイイトホールディングスが主導する業務システムのクラウド



化は段階的に進行中ですが、主要なシステムの移行はすでに終わっており、2017 年 10 月時点で 1 年以上運用を続けていますが、大きなトラブルは一切発生していません。長尾 氏は「障害対応から解放されたことが最大のメリット」だと強調します。

「基幹業務を支える基幹業務システムや、ファイルサーバーが 1 日でもストップしてしまえば、当グループの業務に、大変な打撃を与えます。しかし、運用開始から今日まで "トラブル 0 件" が続いています。これは本当ありがたいことです。今までは 2 か月に 1 回以上の割合で障害が発生しており、その都度、対応に丸 2 日は費やしていましたので、単純な計算でも年間で 96 人 / 日分の労力が削減できたこととなります。本当にこれはありがたいですね。」

SCCloud 上に移行したファイルサーバーも、Azure 上に移行したプリントサーバーも、従前のオンプレミス環境とそん色ないレスポンスが得られていると言います。

「ファイルサーバーに関して、『遅い』と言われたことはありません。多少レスポンスが下がっているのだとは思いますが、まったく気にならないレベルです。もう 1 つ気になっていたプリントサーバーについても、印刷の遅れや失敗などは発生していません。グループ全体で 1 か月に約 30,000 枚が出力されているのですが、非常に好調です」(長尾 氏)。

コストについても、「これまでデータセンターと契約していたサーバーラック 2 本のうち、1 本を解約しており、年内にはもう 1 本のラックも解約する予定」であるほか、新たに回線を引くこともなく、月額わずか 4,000 円で VPN 接続できていることなど、確実に削減できていると言います。

さらに今、従来の環境で運用を続ける中、「従量課金制である Azure を、最適なコストで活用していけるように、試行錯誤を重ねている最中」と、沼田 氏は説明します。

「サーバーラックも減りましたし、全体としてコスト削減の効果が生まれていることに間違いはありません。しかし、各システムのリソースがオーバースペックになっていないかどうかといった細かな検証を、まさに今進めているところです。この取り組みが終わった時には、より大きなコスト削減効果が得られるものと思います。」

長尾 氏はさらに「目に見えないコスト効果も非常に高い。プラスのスパイラルが続いている」と強調します。

「パブリッククラウドをプラットフォームとして、運用をソフトクリエイイトにアウトソーシングしたことで、まず私たちの業務に時間的余裕が生まれました。こうして生まれた時間を、セミナーや社外の交流会参加に充てることで、個々のスキルやナレッジが増えています。それが、新しい発

想につながり、より良い提案などにつながっていると思います。また、運用をアウトソーシングすることで、自社グループ内のシステムの情報を客観的に得られるようになり、改善すべきポイントが可視化されたことも、導入効果の 1 つとして強く実感しています」。

SI 事業を担うソフトクリエイイトの 提案力強化にも直結

そして、SCCloud と Azure の相互接続活用

株式会社ソフトクリエイティブホールディングス

は、ソフトクリエイティブのビジネスにとって大きなメリットを生み出していると、ソフトクリエイティブ 技術本部 クラウドソリューション部 部長 武井直孝氏は話します。

それが、Azure の販売からシステム環境の構築をはじめ、24 時間 365 日の運用・監視サービスまでを、お客様のご要件やご要望に合わせてワンストップでサポートするサービス『SCCI for Azure』の、さらなる充実です。

「当社は、SI を担う事業会社として、お客様のニーズに柔軟に対応するソリューションを提供してきました。そして、クラウドサービスが広く普及した今、私たちも業務システムのクラウドインテグレーションに関して、数多くの実績を重ねています。今回、Azure を社内でも活用するに際しては、運用管理面における " 不足 " を補うために、データのバックアップから時刻同期などのシステムチェック、そしてアンチウィルス対策などをトータルにサポートする『クラウドマネージ for Azure』を作りました。実は、Azure の料金は、個別のリソースごとの明細が分かりづらいために、" コスト最適化 " を目指したチューニングが行いづらいという側面もあるのですが、当社の『クラウドマネージ for Azure』を利用することでフォローできるようになっています。

ソフトクリエイティブが、Azure をより安心して活用するために開発した『クラウドマネージ for Azure』を使うことによって、各システムのコストを最適化するための、きめ細かなチューニングが進められるようになっているのです。

武井氏は、ソフトクリエイティブのノウハウを最大限に活かすことで Azure のみならず、Office 365 などマイクロソフトが提供するクラウドサービスをお客様ごとのニーズに沿って最適な形で提案することが可能だと話します。

「SCCloud や SCCI for Azure など、私たちが積み重ねてきた技術とノウハウを活かすことで、『クラウドマネージ for Azure』のように、お客様のニーズをきめ細かく満たすサービスの提案・構築が可能になっています。また、当社の業務システムのように、SCCloud と Azure を相互接続することで得られるメリットも多くあります。今後、当社のシステムをショールーム化して、お客様へのより良い提案に活かしていきたいと思っています」。

今後の展望

さらなるクラウド化と働き方改革に向けて Microsoft 365 の採用を検討

ソフトクリエイティブホールディングスの業務システム クラウド化のプロ

ジェクトは、今も進行中です。フルクラウド化によるロケーションフリーな環境とセキュリティ対策により、在宅ワークやモバイルワークが進んでいます。直近では、社内のセキュリティ教育などに活用している e ラーニング システムを Azure に移行させることで、お客様先に常駐している社員などが、本社に移動することなく、最新のナレッジを学習できるようにすることが検討されており、今後も働き方改革を進めていくと言います。

沼田氏は、モバイル端末の管理などを含む、「さらなる最適化」のカギとなるソリューションとして、Office 365 と Windows 10、Enterprise Mobility + Security を統合した新サービス「Microsoft 365」の採用を念頭に置いていると話します。

「当グループの業務を支えるシステムのクラウド化は、まだ終わっていません。今後、活用を深め、取り組みを進めていく中で、さらに多くの成果を得ることができると期待しています。カギは、業務環境のすべてをシンプルに統合していくことにあると思います。特に、情報システム室の業務負荷を低減させる上で、" ライセンス管理 " を省力化することも大切になります。そこで、今注目しているのは、Microsoft 365 です。Windows や Office などの業務に不可欠なソフトウェアのほか、多様なモバイル端末の管理、セキュリティの強化などに対応するサービスがパッケージされた、Microsoft 365 を導入すれば当グループが抱えるさまざまなニーズに、まとめて対応できると考えています。

そもそも、当グループの SI 事業においては、Active Directory を活用した認証基盤の構築が主軸となっていることもあり、Microsoft 365 の活用は事業との相性も非常に良く、私たち自身の業務環境を最適化するためにも、お客様への SI 提案に活かしていくためにも、Microsoft 365 の導入が大きな意味を持っていると期待しています」。



導入についてのお問い合わせ

本ケーススタディは、インターネット上でも参照できます。 <http://www.microsoft.com/ja-jp/casestudies/>
本ケーススタディに記載された情報は制作当時(2017年12月)のものであり、閲覧される時点では、変更されている可能性があることをご了承ください。
本ケーススタディは情報提供のみを目的としています。Microsoftは、明示的または暗示的を問わず、本書にいかなる保証も与えるものではありません。

製品に関するお問い合わせは次のインフォメーションをご利用ください。
■インターネット ホームページ <http://www.microsoft.com/ja-jp/>
■マイクロソフト カスタマー インフォメーションセンター 0120-41-6755
(9:00 ~ 17:30 土日祝日、弊社指定休業日を除く)
※電話番号のおかけ間違いにご注意ください。

*記載されている、会社名、製品名、ロゴ等は、各社の登録商標または商標です。
*製品の仕様は、予告なく変更することがあります。予めご了承ください。

日本マイクロソフト株式会社 〒108-0075 東京都港区港南 2-16-3 品川グランドセントラルタワー